

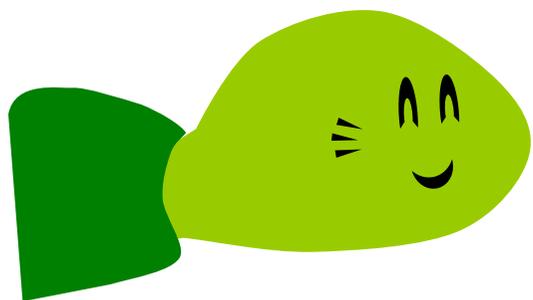
かめ いずみ いけ

亀泉池の



おおそうどう

大騒動!



だ。おいらは、カメ吉ききち。秦野はだのの南地区みなみちくにある亀泉池かめいすみいけに住すんでいるん
だ。ここは水みづがきれいので、トンボやカエルの仲間なかまたちもたくさんい
て、とてもよいところだよ。



「わい、今日けふも暑いなあ、池いけでひと泳おみぎつてゐるな。」

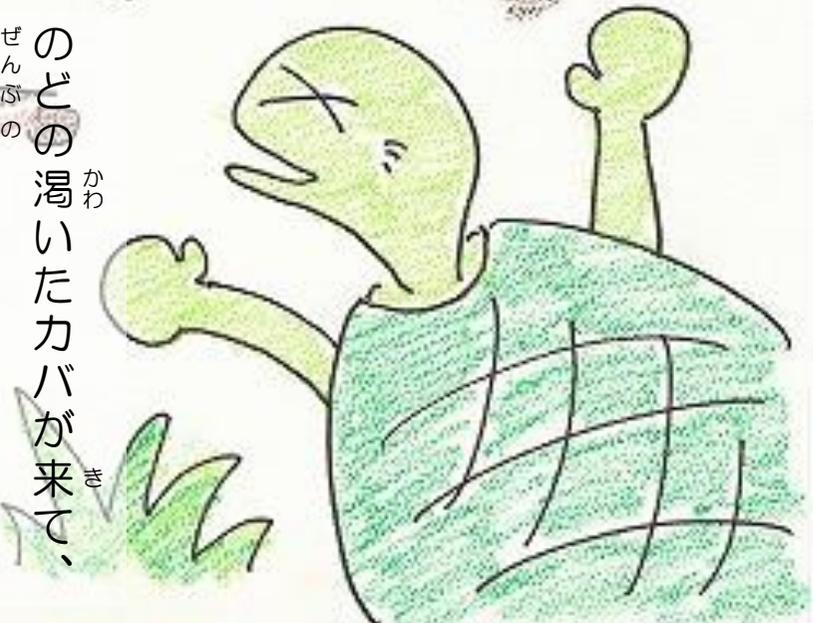
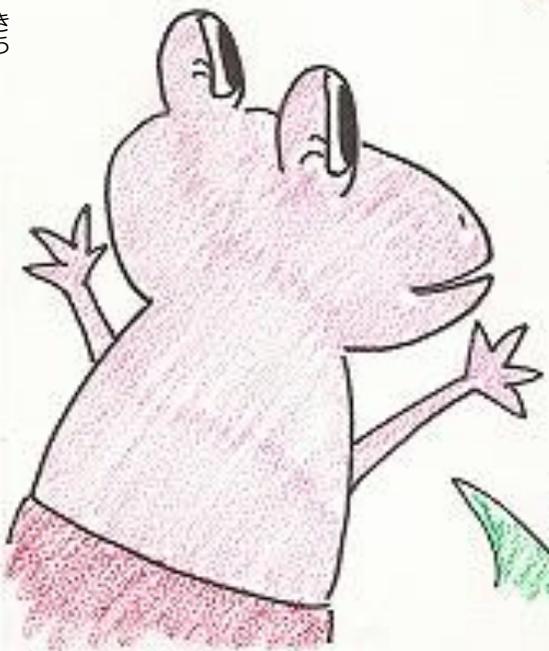
「わーん、わーん。」
「亀泉池の水がなくなっ
ちゃった。」

「あれれっ、池の水がない。
どうしたんだらう。」「おいらも
ひからびちゃうよ。」「



「そうだ、ものしりフクロウ
じいさんに聞いてみよう。な
にか知っているかもしれない
よ。」

「のどの渴いたカバが来て、
全部飲んじゃったのかな。
あまりに暑いから、蒸発しち
やったのかな。」



「カメ吉くん、どうしたの?」

「まあ、これじゃ私の弟や妹が泳
げないわよ。なんとかしてちょうだい。」

「フクロウじいさん、今までどんな日照りが続いても枯れることがなかった亀泉池が干あがっちゃたんだよ。このままじゃ、おいらたち水辺の生き物は、みんな死んでしまっしょ。」

「そりゃ大変だな。なんとかせいやならんぞ。」

しかし、まず、おまえさんたちは、あの池の水がどこからきているか知っているか?」

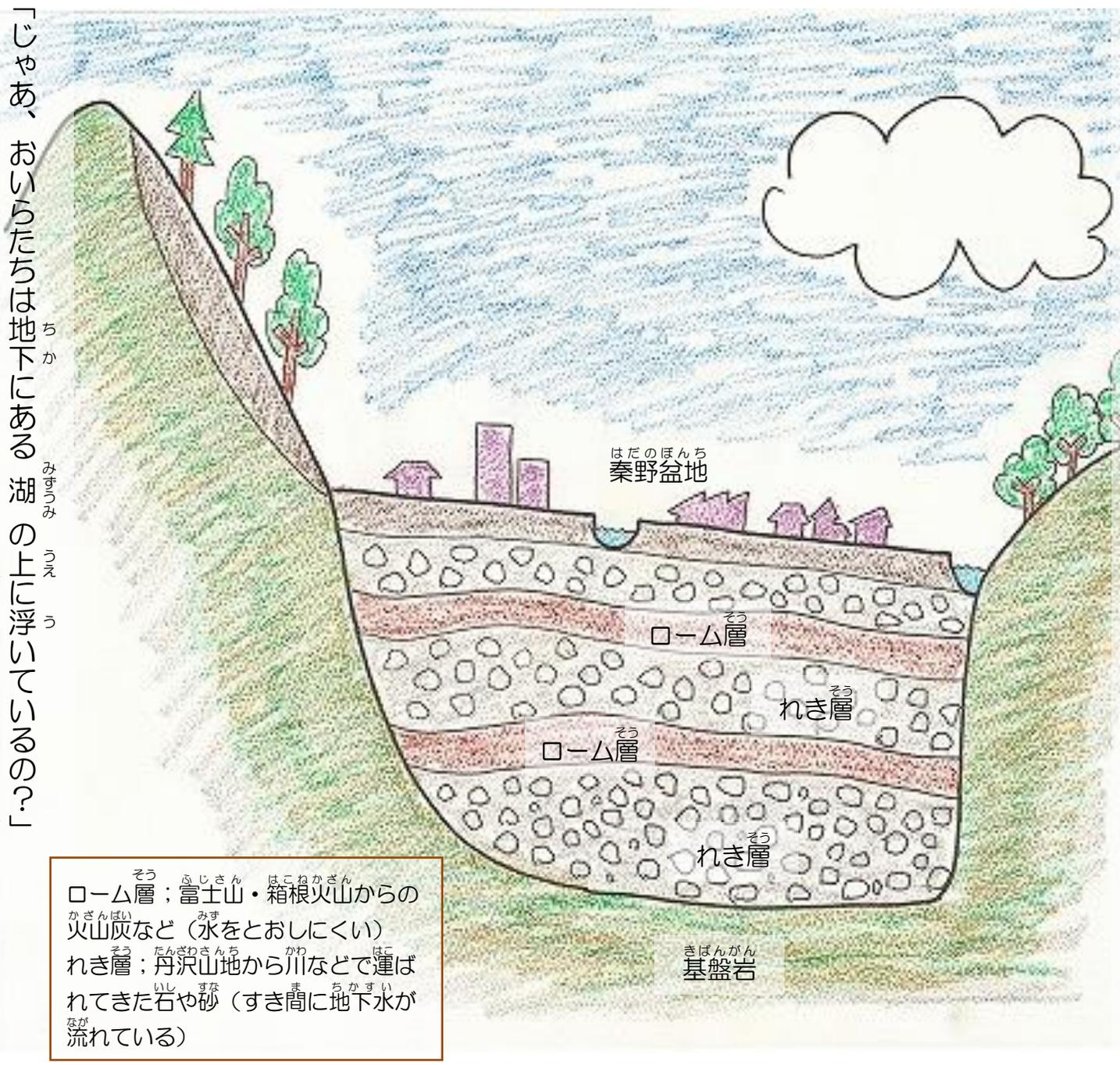


「池の水は雨がたまったものでしょ。」

「川から流れこんでくるんだよ。」

「いい線はいっとるが、ちよっと違うな。あの池の水は地下から湧き出てきているんじやよ。」

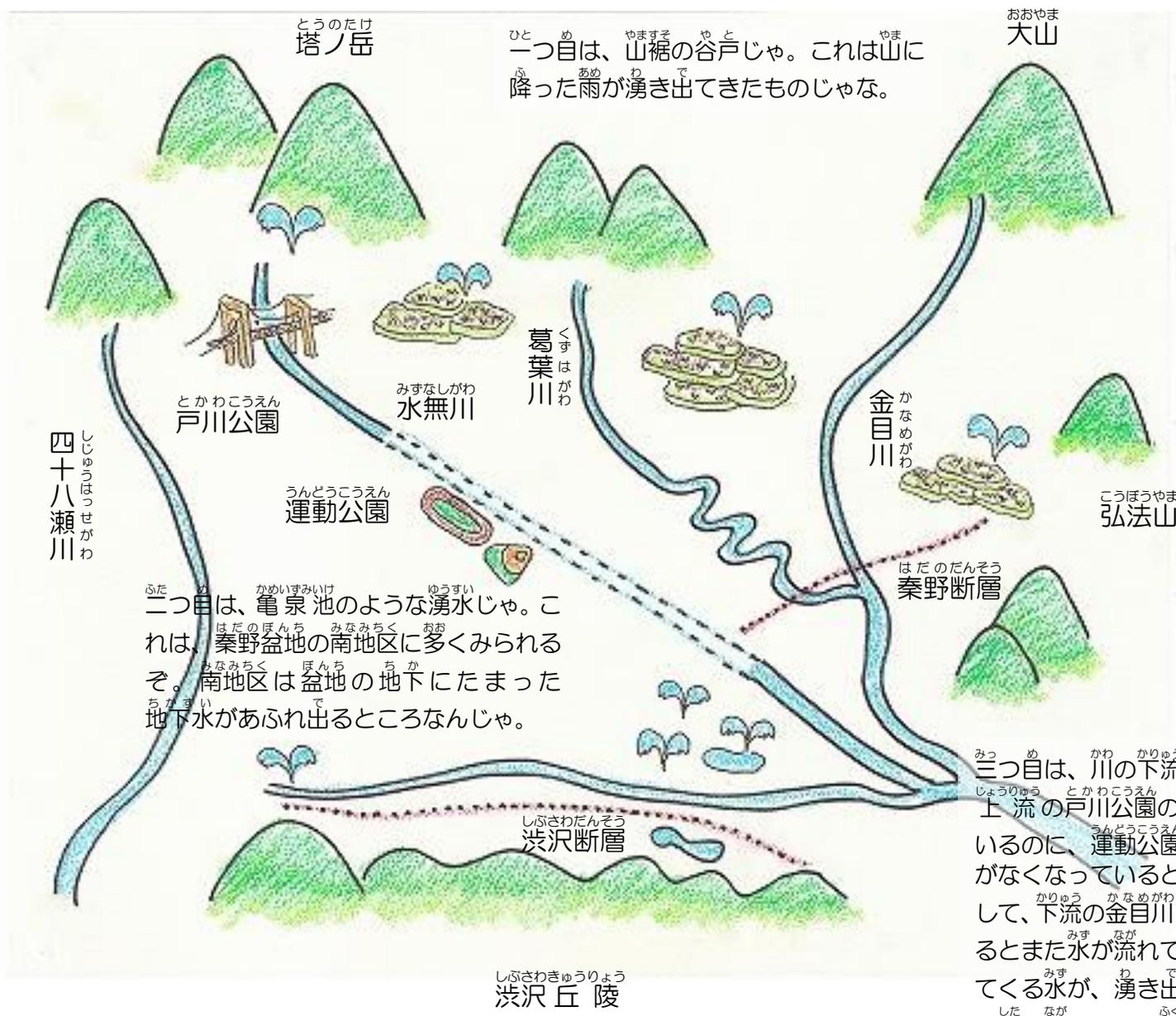
「地下って、地面の下のいじやん？ そんなとこに水があるの？」
「不思議じやろ。みんなが住んどる秦野盆地の地下には、空から降ってきた雨水がしみこみ、約2億7千万トン・芦ノ湖の約1・5倍の水があるんじやよ。」



ローム層；富士山・箱根火山からの火山灰など（水をとおしにくい）
れき層；丹沢山地から川などで運ばれてきた石や砂（すき間に地下水が流れている）

「じゃあ、おいらたちは地下にある湖の上に乗っているの？」
「それじゃあ、みんな船酔いして大変じや。実際の地下水は、石や砂のすき間にあるんじやよ。」
「盆地の底は、硬い岩石が大きなお椀状になっており、その上に秦野盆地の地層が積み重なっているんじや。」

「地下水が流れているのはわかったけど、なぜ湧き出るのよ。」
 「地下水が湧き水になって地表に出てくるようになるは何か所があるぞ。」



一つ目は、山裾の谷戸じゃ。これは山に降った雨が湧き出てきたものじゃな。

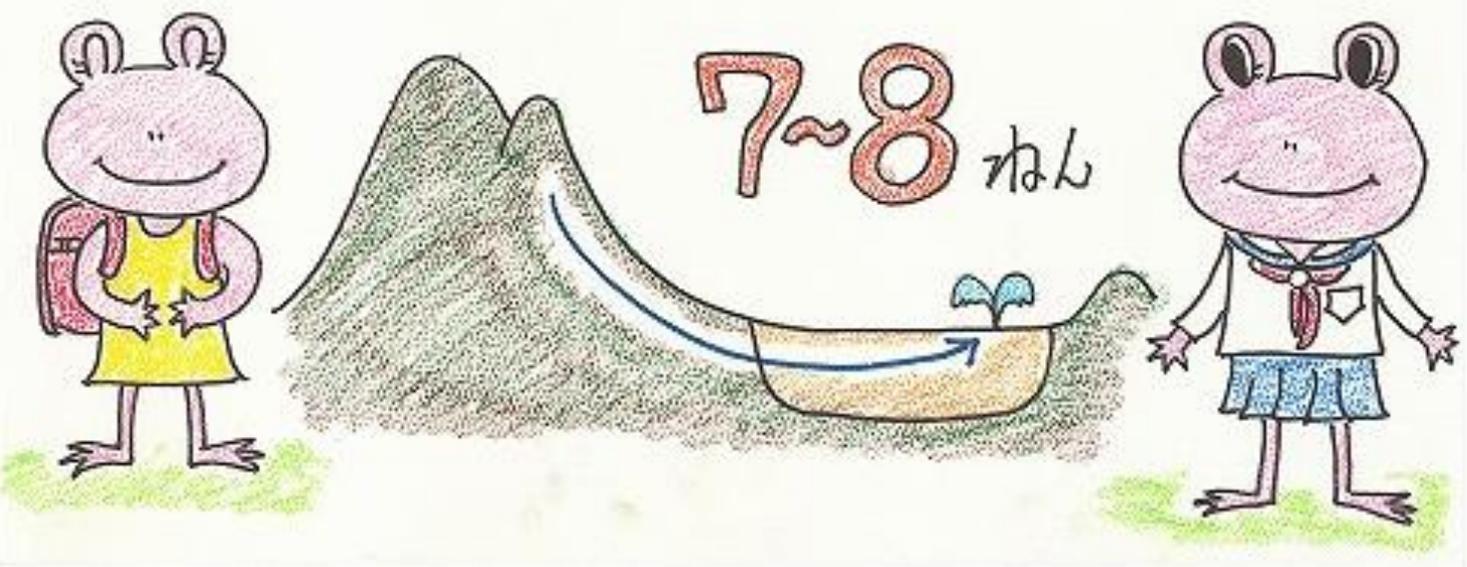
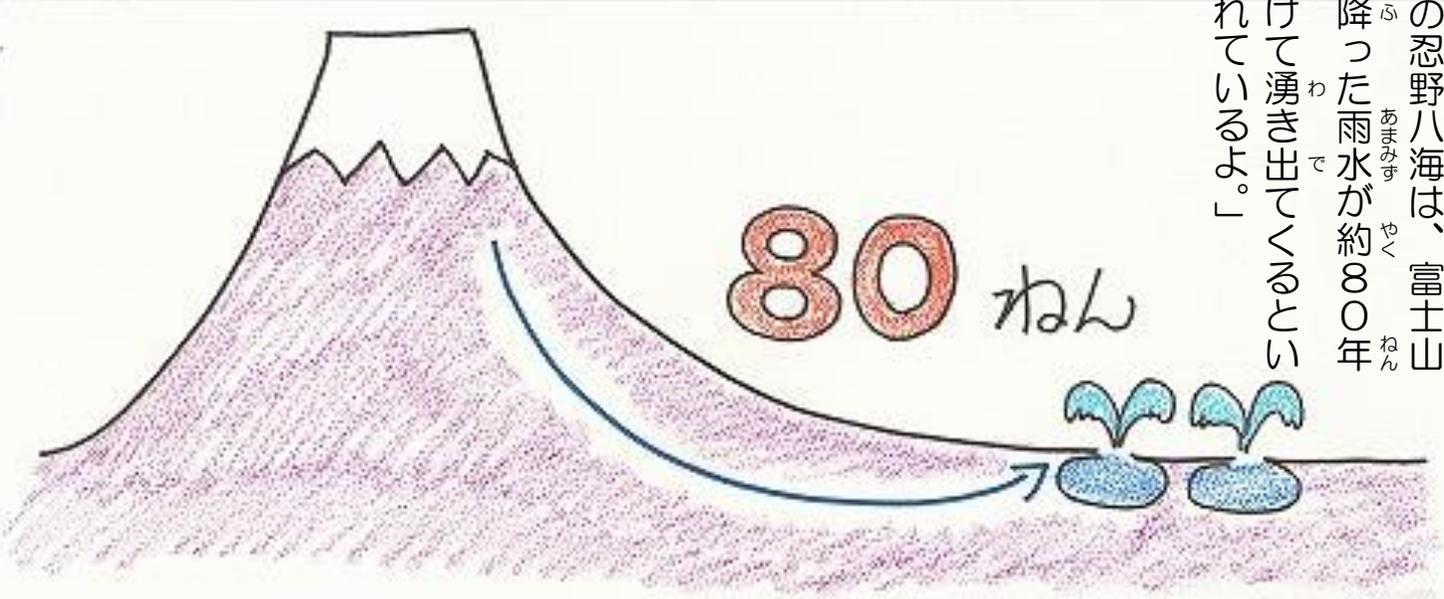
二つ目は、亀泉池のような湧水じゃ。これは、秦野盆地の南地区に多くみられるぞ。南地区は盆地の地下にたまった地下水があふれ出るところなんじゃ。

三つ目は、川の下流じゃ。水無川では、上流の戸川公園のあたりは水が流れているのに、運動公園のあたりになると水がなくなっているときがあるんじゃ。そして、下流の金目川と合流する手前になるとまた水が流れている。この下流で出てくる水が、湧き出てきた地下水と川底の下を流れてきた伏流水なんじゃ。

「そうか、亀泉池の水が秦野盆地の地下から湧き出るのはわかったよ。」

「山に降った雨が亀泉池に湧き出てくるまでどのくらいかかるのかなあ。」

「ぴよん子ちゃん、いい質問だね。富士山のふもとのおしのはっかい、富士山に降った雨水が約80年かけて湧き出てくるといわれているよ。」



「亀泉池の近くの弘法の清水は、丹沢や秦野盆地に降った雨が、地面にしみこんで、7・8年で湧き出るよとわかっておるんだよ。」

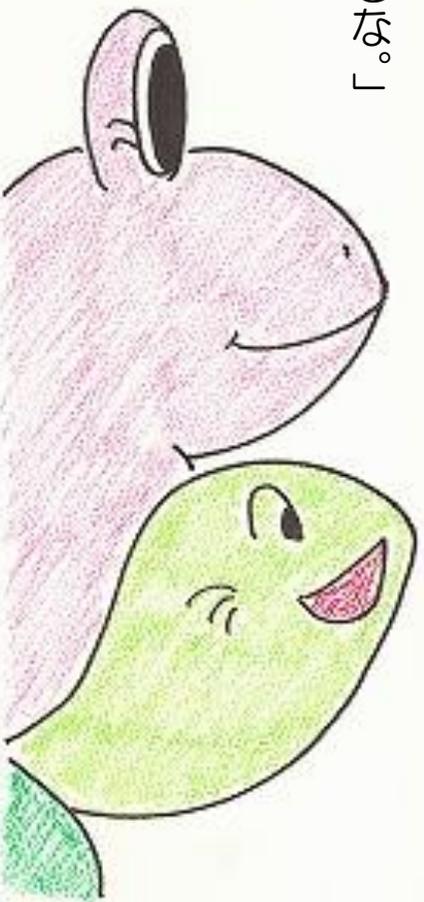
「富士山に比べたら早いけど、湧き出るまでに小学校へ入学してから卒業しちゃうわね。」

「弘法の清水に、そんな昔に降った雨が湧き出ていたなんてビックリだよ。」

「でも、どうして亀泉池の水がなくなっちゃったのかなあ。」



「そうじゃな、湧き水
がなくなった理由は
二つ考えられるな。」



「二つあるの、どっちかな。」

「ーは、空から降った雨が地下へしみこみこまくなってきたのじゃ。」

「山や畑だったところが、道路やビルになって、地面がコンクリートで覆われると、今まで地下へしみこんでいた雨水が、地中にしみこめなくなると、川へ流れていってしまふんじゃ。」



「このような場所が増えると、だんだんと地下水が減っていってしまふんじゃ。」

「地下水になる雨水が川から海に流れ出てしまふんだね。」

「森や林が放っておかれて、荒れてしまふのもよくならな。」

「でも、道路も人が住む家やマンションも必要よ。ーはーはばーのかしら。」

「ほかに、^{やね}屋根に降った^{あまみず}雨水を^{こうきょうげすい}公共下水に流さずに、^{なが}雨水^{うすい}浸透^{しんとう}ますというところに入れて、^{ちか}地下へ^{しんとう}浸透させるものもあるよ。」

「道路^{だうろ}や^{ちゆうじやう}駐車場では、^{あまみず}雨水を通し^{とお}やすい^{やす}アスファルト^{あすふあると}舗装^{ほそう}もあるんじや。^{なが}長い^{あいた}間、^{ほう}放っておか^{ほう}れた^も森^{もり}や^{はやし}林を^{みん}みなで^{きれ}きれいに^すする^{こと}もして^おるな。」



「^{ほうほう}こうして、^{つか}いろいろな^{ちかすい}方法^{ちかすい}を使って、^ふ地下^{どりよく}水を^ふ増^ふやす^{どりよく}努力^{どりよく}をして^おるの^じじゃ。」

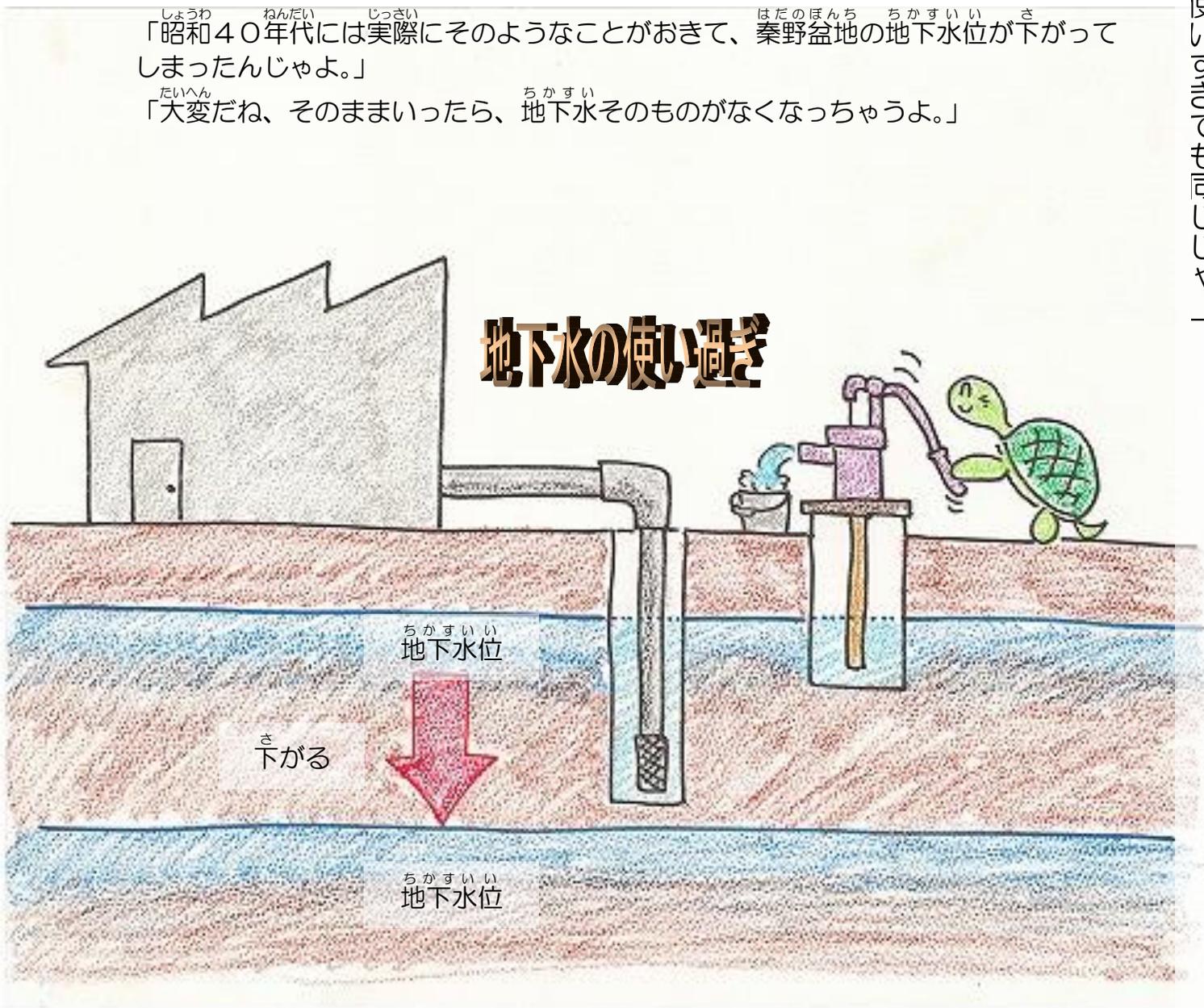
「^{ひと}人の^{せいかつ}生活^{せいかつ}によって^{うしな}失^{うしな}われた^{ちかすい}地下^{ちかすい}水^とを取り^{もど}戻^{もど}すために、^{にんげん}人間^{にんげん}たちは、^{いろ}いろ^{いろ}な^{くわい}工夫^{くわい}と^{どりよく}努力^{どりよく}を^しして^おるよ。」

「^{ちかすい}地下^{ちかすい}水^のしみ^こみ^{やす}い^{ばしょ}場所^{ばしょ}では、^{うんかく}耕作^{うんかく}を^して^いない^た田^たん^ぼに^{みず}水^{みず}を^い入れ^て、^た田^たん^ぼから^{ちか}地下^{ちか}へ^{みず}水^{みず}を^しみ^こま^せて^いる^んじ^ゃ。」

「二つ目の原因は、地下水の汲み上げ過ぎによるものじゃ。」 「人口が増えて、地下水を利用した水道水の使用量が増えると、地下水をどんどん汲み上げなくちゃ間に合わなくなる。また、地下水を工業用水に使っている工場が使いすぎても同じじゃ。」

「昭和40年代には実際にそのようなことがおきて、秦野盆地の地下水位が下がってしまったんじゃよ。」

「大変だね、そのままいったら、地下水そのものがなくなっちゃうよ。」



「でも、この問題の解決は簡単ね、みんなで地下水を汲み上げなければいいのよ。」

「だめだよ、ぴゃん子ちゃん、秦野の水道水の約75パーセントは地下水なんだよ、水が足りなくなっちゃう。」

「そうじゃな、はたの 秦野は地下水を水道水に使うじや、すいすい 安くておいしい水道水を飲め
ているんじや。じゃから、ちかすい 地下水の利用計画を立てて、じちう 上手に使わなくちゃなら
ないんじや。」

「それと、なご なごよりも使う量りょうを減らすじよ。節水せすいじやよ。」



「カメ吉、きは 歯を磨くときこ
すいすい 水道の水を流しっぱなし
にしておらんか？」

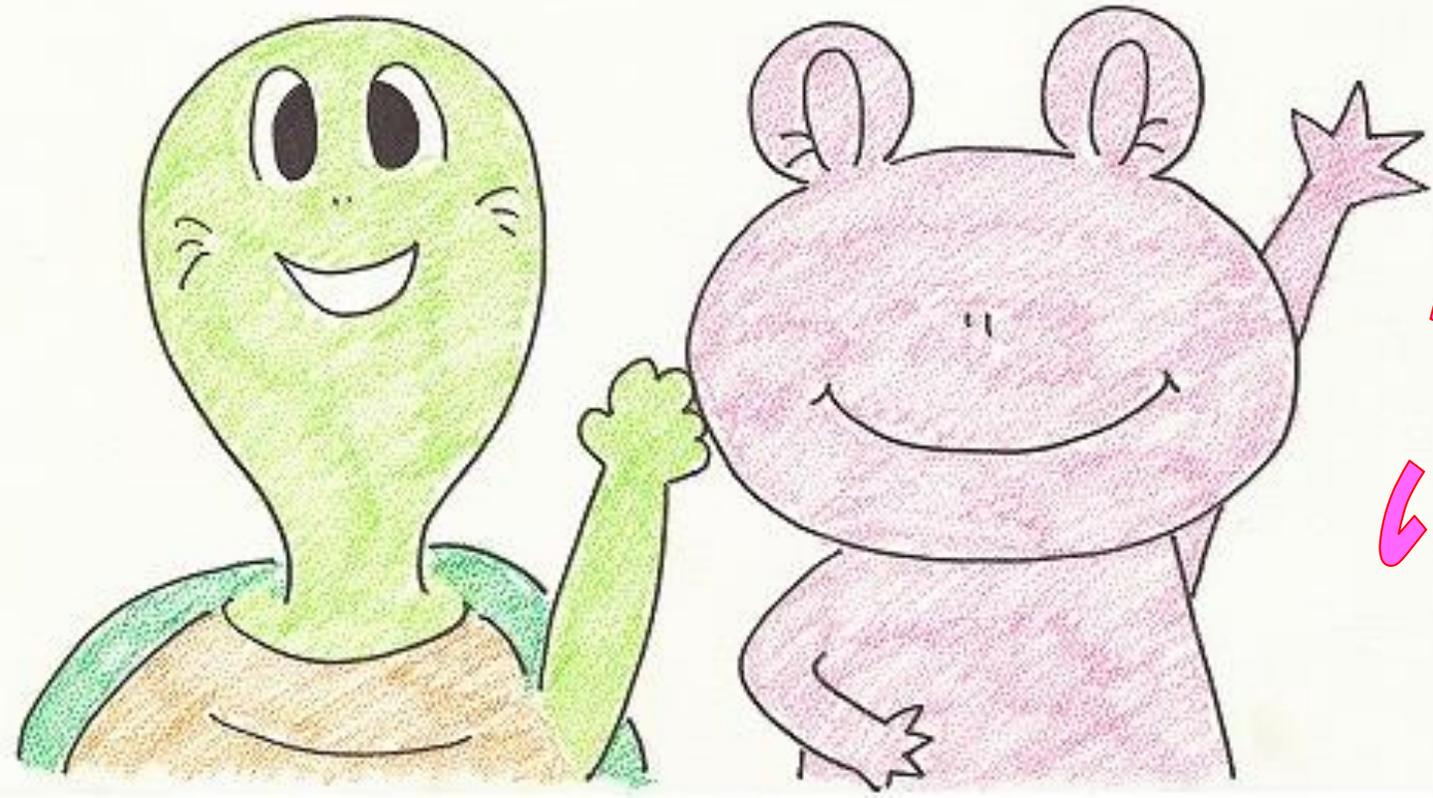
「びよん びよん子ちゃん、からだ 体
を洗うときにシャワー
を流しっぱなしにして
おらんか？」

「ほかに ほかに風呂水の再利用。さいり 最近の家電製品は、せい 省エネ・節水型のもの
がほとんどだから、あた 新しいものに買い換えるのも一しの手じやよ。」

「わかったわ、地下水を増やす工夫と水を大切にすれば、亀泉池の水も戻ってくるのね。」
「そうだね、おいらも今日から水を大切に使うよ。」

はい

たいせつ
水を大切に



「水は身近にあって当たり前なものと思っちゃったじゃろ。いざ、なくなっちゃったらねほんど困るものはないんじゃ。これからは、天の恵みに感謝して使うんじゃろ。」

「しかし、これだけ人間も努力をしているのに、いきなり亀泉池の水がなくなってしまうのは、やっぱりおかしいのう。」
「そうじゃ、おまえたち、最近、池の近くで大きな工事をしてなかったか？」

「「そういえば、池の北側に大きなビルを造っているよ。」



「大きなビル工事をするときには、工事の前に地下の様子を調査して、地下水やまわりの建物に影響を与えないようにしてやるはずじゃ。」
「そうなんだ。みんな地下水のことを考えているんだね。」

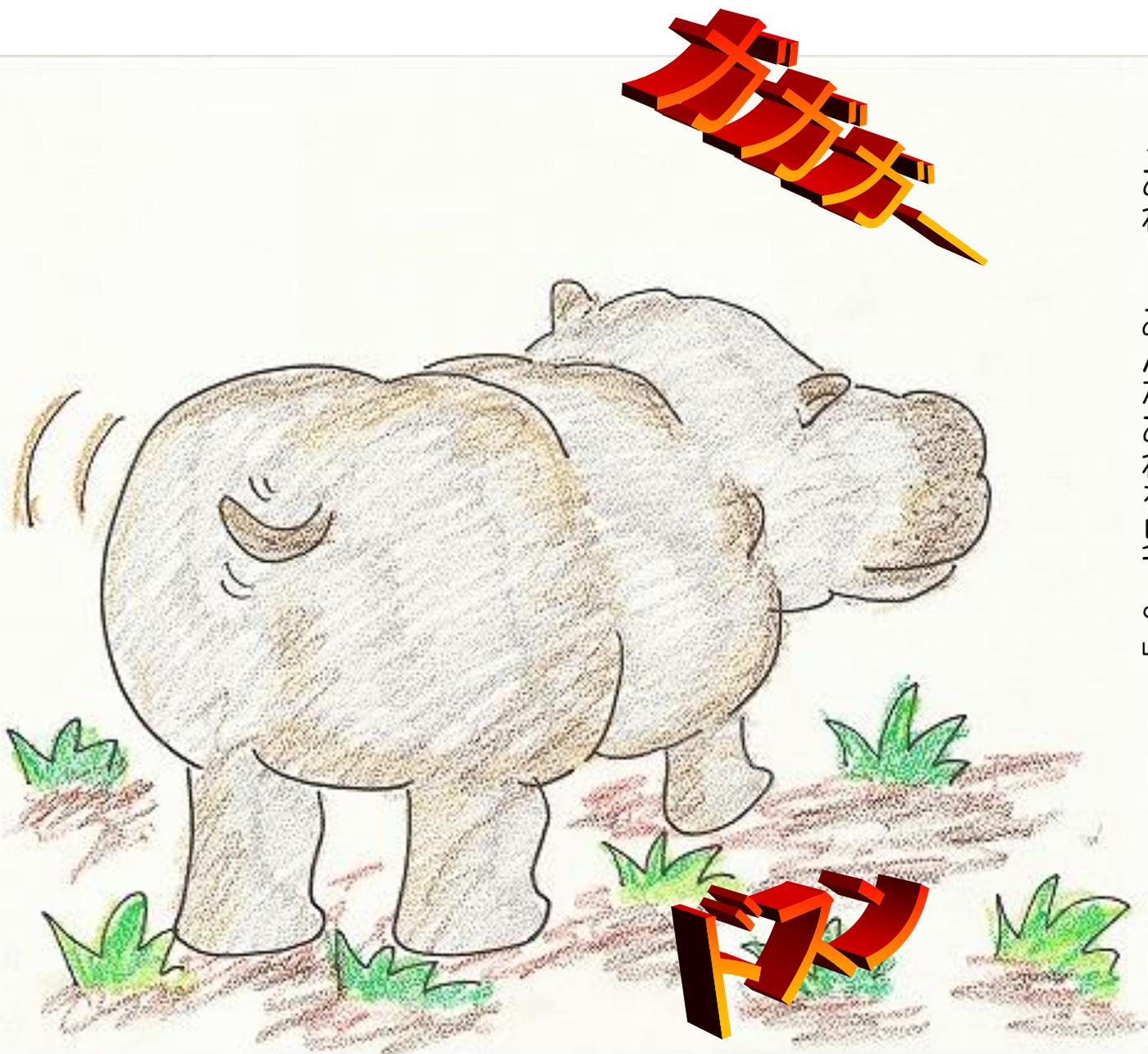
「うわあっ、なんの音おと。雷かみなりかしら。」
「おへソをかくさなくちゃ。」



「地震じしんかあー、たすけてー！！」

「あわてるんじゃない。落ち着おきななれ。」
「地震じしんでも雷かみなりでもないみたいじゃ。それにぴよん子こちゃん、
雷かみなり様におへソはもとももないじゃ。」

「あわっ、みんなあわを見よう。」



「まあ、あのうしろ

すがた
姿は、

もしかして……

まわかの……」



「かばのカバ助くん！」



「やあ、みんなおそろいで、こんにちは。
あいかわらず暑くてま
いるね。」

「あまりに暑くて、池の水を飲みすぎちゃったよ。」

「やっぱりカバさんの仕業か。」

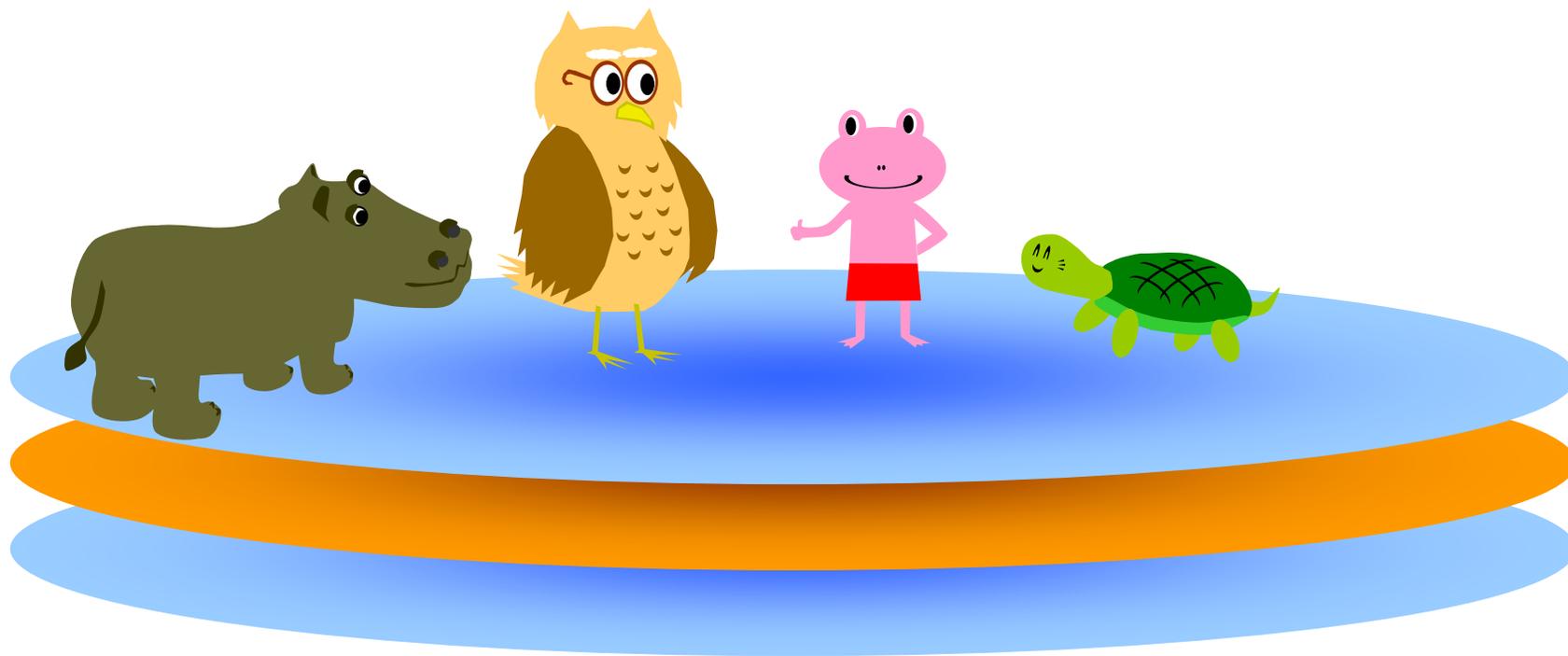
「ほんと、どうなることかと心配したけど、原因がわかってよかったわ。それ、
おかげで地下水のこと、いろいろ教えてもらって、勉強になったわ。」
「それじゃあ、自然の恵と人間の努力に感謝して、みんなでひと泳ぎしよう！」



「よかったのう。カメ吉・ぴよん子ちゃん、もう心配ならなごじやろ。
じきに水が湧き出てきて、亀泉池は元どおりに戻るじやないかい。」

あしまい





亀泉池の大騒動 平成25年(2013年)5月
秦野市 環境産業部 環境保全課 <http://www.city.hadano.kanagawa.jp/>